

澤村 9月期売上見通し 103億円 経常利益 2億円を予想

海外生産は共同でコストダウン

澤村の2013年9月期は減収減益だが、今期（2014年9月期）は売上高100億円台を回復し、利益も黒字転換を果たす見込みで業績回復基調が明確となった。

同社の清水民生社長は本誌のインタビューに答え「半期を終え業績は売上高が前期比113%増となった。産業用テキスタイルとスポーツアパレルが伸びている。インナーアパレルも数量が伸びほぼ二桁台の増加となる。アベノミクスの影響で昨年後半からの産業テキスタイルの上昇が続き輸出が順調に伸びている。利益は円安が響き製品の利益がやや落ちる。」と話す。

9月期の業績については「売上高は103億円を見込んでいる。前期97億4677万円だったので100億円台に回復できる。経常利益は前期の1億1888万円から今期は2億円を見込む。消費税増税導入から市場は微妙に値上げが浸透している。今期には反映できないが来期は流通と一緒に足並みが揃うように進め立て直したい」としている。

チャイナプラスワンの方向性に関しては「当社は懸念材料はない。為替のデリバリーは前向きに取り組む。むしろ、前に進みやすい環境ができて後ろ向きの対策はない。タイはテキスタイルの一つの拠点にする。日本人2人、現地人3人の体制。上海はこれから仕掛けるが信頼できる企業として現地の日系企業に製品販売する方針。当社は共同して中国での生産コストを抑えるために集約して量のメリットを活かして集中発注する。また、工場の一部移転も視野にある。しかし量がないと材料の集約化ができないし中国並みの材料が現地で揃いにくい問題点もある。加工賃だけでなく物流、検査、LCの費用などトータルに海外生産の発想が求められる」といっている。